

## 臨床データ利用についてのお願い

当院では下記の研究を行っております。

課題名：注意障害を有する脳梗塞患者に対し早期より長下肢装具での立位練習を実施した一症例

### <目的及び概要>

注意障害は高次脳機能障害の症状として、最も頻度の高い症状の一つであると報告されており、運動学習が重要となる脳梗塞患者において、注意障害は理学療法を実施する中で大きな阻害因子となることが多い。今回、注意障害を有する患者に対して長下肢装具を使用した立位練習を実施し、良好な経過を経たので報告する。

### <研究方法>

理学療法早期より長下肢装具を使用し立位練習を実施した。膝関節伸展ロックした状態で、屈曲した股関節と膝関節を伸展させ大殿筋と大腿四頭筋を随意的に収縮させる際、収縮する筋をタッピングすることで収縮筋を意識させた。立位練習は膝関節ロックした状態で左右への重心移動の練習も行い、可能になれば膝関節ロックを解放した状態でも実施した。立位での姿勢が安定すれば、麻痺側を前方としたステップ練習を実施した。練習中は鏡を用いて全身アライメントの視覚的フィードバックを行い、動作指導に関しては一つずつ動作を分けながら行うことで注意を向けやすい環境を作った。退院時にはキャスター付きピックアップ歩行器で歩行可能となり、階段昇降も手すりを把持して可能となった。右BRS下肢Ⅴ、上肢Ⅴ、手指Ⅵ。TMT-A1分38秒、TMT-B1分54秒。10n歩行速度は39,3秒、TUGは39,6秒、BBSは26点。自宅でのADL獲得し自宅退院となった。

### <研究成果発表>

学会等や誌上での報告を行います。個人名や個人情報公表されることはありません。

### <研究者>

リハビリテーション部：大畑拓也

### <問い合わせ先>

本研究に関するお問い合わせや診療情報の利用を望まれない方は、下記までご連絡ください。

兵庫県立西宮病院 医事課  
電話：0798-34-5151（代表）